

SY1-3

**幼児期の食べる力を育てる取り組み
～保育所等の特性を生かした食育のさらなる推進について～**

山城 いと子

(元) 那覇市こども教育保育課

演者は、那覇市役所職員として、保育士や所長、主幹、担当副参事として就学前（乳幼児期）の保育行政にかかわってきた。

保育所やこども園においては、「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」に基づき、乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努めることとなっており、各施設の特性を生かした食育計画を策定している。

保育現場の乳幼児の健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向けた食育の取組、実践を紹介する。

令和2年度、那覇市公立の就学前教育・保育施設は20の認定こども園である。こども教育保育課に主任栄養士が2名配置され、栄養士の専門性を生かし「こども園給食計画」策定、安心・安全で栄養バランスのとれた給食の提供、各園との連携による食育活動の推進、健康な21における健康課題に基づいた保護者向け食に関する情報・知識の発信を行っている。また、給食関係者による給食会議や研修会の実施も計画的に行っている。一方こども園現場では、食育年間指導計画に基づき各年齢に応じ、食事提供だけでなく食に関わることを子どもの生活や遊びの一部と捉え教育・保育の中に取り入れている。栽培活動やクッキング、商店街や市場の見学、地域のJAさんとの連携による収穫体験や給食交流等もこども達の食に関する興味関心を高めている。また、毎日の給食展示や給食だよりや離乳食だより等を適宜発行したり、弁当会、保護者の給食試食会、食に関する講演会の開催等保育施設の特性を生かした活動を展開してきた。

加えて、保育所の人的・物的資源を生かし、地域における子育て家庭からの食に関する相談への対応や情報提供に努める取組みとして、「子育て応援DAY」「子育て支援センター事業」において、給食試食や育児講座、情報発信など行い好評である。

子どもへの食育は、子どもの成長や発達に合わせた切れ目のない取組の推進が重要である。発育・発達過程に応じて育てたい「食べる力」がある。こども園等においては、多様化する社会環境の中で、様々な食物へのアクセスや情報へのアクセスを活用している。

就園率の向上や子育て支援の取組みの推進を背景に、多くの乳幼児期の子どもたちが「食育」を通じた豊かな食環境に関わる機会を得ていると考える。そのような中、食育を展開する保育施設や職員を取り巻く環境は充実しているとはいいがたい。また、食の安全を危惧する事例も多く発生している。

各施設において、地域や各施設の特性に応じた食育計画となっているかの検証と見直しを行う等の支援や保育環境の整備がさらに推進されることを期待したい。